

1. 第1回研修

事前課題

1. ワークシート「私の教師経験と関心」

現在までに関わった日本語教育現場で感じる悩みや疑問、課題について、自分の問題意識を認識し、整理する。

研修内容

科目1：就労者に対する日本語教育 —日本語教師・就労者・教育現場—

目的：「就労者に対する日本語教育」の視野を広げる

- ① 就労【初任】の日本語教師の多様さ・互いの問題意識を知る
- ② 「就労者」の多様さを知り、特徴を整理する
- ③ 「就労者を取り巻く社会環境や教室の成り立ちを知る

実施内容：

I <グループ活動> 受講者同士の経験や現場に理解を深める

- ① 各自の日本語教育現場・経験・課題について共有
(事前課題のワークシートに基づいて実施)
- ② それぞれの現場、対象者について情報交換

II <グループ活動・解説> 「就労者」の多様さをまとめる

- ① 日本語教育現場にいる「就労者」とは誰のことなのかグループで整理する
Q: 外国人就労者にはどのような人々がいるのか？
(在留資格、来日目的、言語・文化的背景、就労先の有無等)
- ② 全体で意見を出し合い、講師が補足しながら整理する

III <事例解説> 就労者を取り巻く環境・教室の成り立ちを知る

就労者の教室において、日本語学習者のニーズだけでなく、教室の外にある社会のニーズ(行政や企業との関わり)に意識を向けることの重要性について、「就労者に対する日本語教育」の現場の事例から理解を促す。ここでは、JICE が実施してきた求職中の定住外国人を対象とした就労支援の日本語研修の背景、目的、研修運営の体制の特徴などを含めて解説する。

科目2：就労者に対する日本語教育 コースデザイン（概論・事例）

目的：就労者に対するコースデザインの流れと留意点の整理

実施内容：

I <グループ活動・解説> コースデザインとは

- ① コースデザインではどんな項目について何をするのか、グループで【養成】で学んだことをおさらいする
 - ② 全体で意見を出し合い、講師が補足しながら整理する
 - ③ ②の結果を踏まえ、「就労者に対するコースデザイン」のポイントをJICEの事例を参照しながら、解説する
- 例・日本で就職を目指す人たちの日本語教育におけるポイント
- ・受講者の特徴：多国籍化・多様化、レベルの混在、成人受講者
 - ・キャリア支援とファシリテーターの役割、課題達成型実践など

科目3：就労者に対する日本語教育 指導法（概論・事例）

目的：就労者に対する指導法の特徴についてJICEの事例を素材に考える

実施内容：

I <解説> 「就労者に対する日本語教育」の目的と指導法

- ① なぜ、就労者に対して「課題達成型」なのか？
- ② JICEの事例：求職中の定住者向け「課題達成型」の効果
- ③ JICEの事例：求職中の定住者向け「課題達成型」のシラバスとは？
教材：「はたらくための日本語Ⅰー職場のコミュニケーション」

II <グループ活動・解説> 「課題達成型」の授業展開

- ① 「はたらくための日本語Ⅰー職場のコミュニケーション」の分析
Q: 一般の日本語テキストとの違いは？
- ② 特徴の異なる定住者15名のクラスについて指導上の工夫を考案する
クラスA：耳から習得した日本語で10年以上暮らす日系人15名。
日本語の体系的な学習経験はない
クラスB：日本での滞在経験が浅い日本語初学者、多国籍15名。

（活動概要）

クラスAとBについてグループ内で担当を分けて、ペアになって考える。その後、グループ内で工夫案を共有する。全体で意見交換し、講師が解説・フィードバックを行った。ここでは、同じ“定住者”を対象にしているも、地域やクラスの特徴によって、教師が「課題達成型」実践の在り方を

変化させたり、工夫・調整したりする必要があるという教育現場の複雑さに気づいてもらう。

2. 第2回研修

事前課題

1. 在留資格についての整理

まずは、日本語教師として「在留資格」についての知識が必要になったことがあるか、研修の前に意識を向け、「在留資格」の種類について調べてみる。

2. 参考資料（下記文献）を読んで「構成主義的教育観」の考え方を整理する。

*参考資料：久保田賢一(2003)「構成主義が投げかける新しい教育」『コンピュータ&エデュケーション』Vol.15,No.12,pp.12-18

3. 日本語を学習する当事者の語り（ビデオ視聴）を見て、多様な背景をもつ定住者を対象にした教室活動の目標を考える。

*教材：「はたらくための日本語—職場のコミュニケーション I」Lesson 6

研修内容

科目4：外国人の就労支援の現状

目的：外国人就労者に関わる基礎知識と、就労支援機関における外国人の就職支援・キャリア支援の現状を理解する。

実施内容

- I <解説>日本における外国人労働者の推移と就労者の現状
 - ・各省庁からのデータをもとに現状を捉える
 - ・「在留資格」の基礎知識
- II <解説>外国人の就労支援とキャリア支援について
 - ・働くことができるビザとは
 - ・外国人の求職方法と求められる日本語レベル
 - ・新在留資格「特定技能」について

科目5：就労者に対する指導法 —課題達成型実践演習—

目的：課題達成型実践の演習を通して、次の①②を目指す。

- ① 「課題達成型」実践のための教材を理解する

「はたらくための日本語―職場のコミュニケーションⅠ」の構成と意図の理解

- ② 「構成主義的教育観」のアプローチを理解し、さらに多様な受講者や目標に合わせた具体的な実践の技能を向上させる

実施内容：

I <グループ活動・解説> ウォーミングアップ

事前課題のビデオ視聴をもとに、定住者の視点を想像・体感する

II <グループ活動・解説>

事前課題をもとに「構成主義的教育観」について、グループ内で話し合う

III <グループ活動・解説>

テキスト「はたらくための日本語―職場のコミュニケーションⅠ」の構成や意図を理解しながら、指定された Lesson 6 の前半部分について、想定するクラスの状況設定や授業展開をまとめる。事前課題でメモした構成主義の理解をもとに進める。その後、ワールドカフェ形式で、クラス全体で共有・振り返りを行う。

IV <グループ活動・解説>

Lesson 6 後半部分を、日本語学習者と教師両方の視点から授業の組み立てを考える。想定する日本語学習者（定住者）になったつもりで授業展開を予測しグループ内で共有し、授業内に日本語学習者から引き出されるであろう談話展開のバリエーションを考え、まとめる。それを踏まえて、教師は、どのような指示や活動を組み立てればよいか考え、まとめる。最後に、グループ内・グループ間で模擬授業の演習を実施。実施後に振り返り。

3. 第3回研修

事前課題

1. 課題達成型実践の授業内やコース途中における評価の方法について考えてみる
2. 就労者に実施されうる「テストによる評価」の基礎情報・知識の整理
3. 日本における外国人の在留等に関する現状について統計資料等を参考にまとめる
4. (資料)「日本語教育推進法の概要」を参照し、法律ができたことによる日本語教育現場への波及効果とデメリットを考える

研修内容

科目6：就労者に対する日本語教育 評価の方法（概論・事例）

目的：就労者に対する日本語教育について①～③を理解・実践する

- ① 多角的な評価の方法・目的を整理する
- ② 課題達成型実践における評価ツールを具体化できる
- ③ 就労者に対する日本語教育における評価

実施内容

I <グループ活動・解説>

就労者に対する日本語教育において、いわゆる筆記テスト等を中心としたテストの結果による評価以外の、多角的な評価方法の必要を確認する。各授業内の評価とコース途中に行う評価、2つの観点から、学習過程における評価の方法について、事前課題をもとに各グループで考えられる評価方法を整理する。その後、JICE の実践事例から、補足・様々な評価方法の解説を行う。

II <解説>

Iの活動を踏まえて、JICE の実践から評価の事例を紹介する。各授業内での評価とコース途中に行う評価、2つの観点から、事例を解説する。特に、「課題を達成することができる」ことを評価する枠組みとツールに着目する。

III <グループ活動・解説>

IIの解説を踏まえ、各授業内での評価（授業内の観察とフィードバック）において必要となる評価のための指標（項目）を具体的に作成する活動を行う。

<ワークショップの流れ>

- ・次の異なる2つのタイプの教室を提示する。

A：地域:工業地帯、受講者:工場で働いているか今後就職を目指す人 10名

B：地域:都市部、受講者:サービス、介護、建設業など様々な職種で働いているか、今後就職を目指す人 10名

各グループは、担当になった教室（AかB）を想定し、対象となる学習者に適した評価項目を作成する。最後に発表しあい、気づいた点などを共有する

※使用教材：『はたらくための日本語—職場のコミュニケーションI』

IV<解説>

教室の外（就労者に関わる企業関係者等）に向けて評価を示すことについて考えてみる。ペーパーテストが日本語能力を示す一定の指標として採用者側に分かりやすい反面、言語運用能力が十分に評価できないという問題を提示し、JICE での実践事例からヒントを探る。学習者自身の自己評価や学習者の実際の声も参照する。

科目7：外国人の受け入れ政策と日本語講師の役割

目的：外国人受け入れに関する法律と政策の現状を理解し、今後の日本語教師の役割を捉え直す

実施内容

I <グループ活動>

事前課題のワークについてグループ内で共有し、各自の情報の差を埋める

II <テーマ解説と質疑応答>

- ① 法律と政策の現状
 - ・骨太方針等政府の基本戦略について
 - ・入管法と関連施策について
 - ・日本語教育推進法と今後の展望について
- ② 日本語教師の資格について
- ③ 外国人に対する日本語能力評価の現状と課題

4. 第4回研修

事前課題

1. ワーク1：参考資料（「キャリア」／渡辺三枝子）を読んで、自分の将来の在り方を考える

*参考資料：渡辺三枝子(2014)「キャリア」『キャリアデザイン支援ハンドブック』日本キャリアデザイン学会編（ナカニシヤ出版）

2. ワーク2：自分が関わる教育現場におけるキャリア支援に該当する実践の整理

研修内容

科目8：キャリア支援と日本語教師の役割

目的：キャリア支援のポイントを知り、日本語教師ができるキャリア支援の形を考えるとともに、活動を通じて自分のキャリアの振り返りを行う。

実施内容

<テーマ解説と活動>

① キャリアとは—概念と理論

- ・ライフキャリア、キャリア構築理論
- ・客観的キャリアと主観的キャリア

【活動1】 事前課題をもとに自身のライフキャリアを考える

② キャリア支援の枠組みと日本語教師の役割

- ・キャリア教育、キャリアガイダンス、キャリアカウセリング、日本語支援
- ・キャリアプランニングプロセスにおける日本語教師の役割

【活動2】 ケーススタディ Q：こんなときどうしますか？

ケース1：宗教と主観的キャリアの関わり

ケース2：日本語学習者の問題と日本語教師にできること

科目9：就労者に対するキャリア支援の実践

目的：キャリア支援の実践ワークを体験し、教師としての対応を考える

実施内容

Ⅰ <テーマ解説と活動>

① 日本語教育におけるキャリア支援の実践

*テキスト「はたらくための日本語—キャリアプランニング」の一部から

- ・「ライフラインチャート」の目的
- ・ファシリテーターとしての姿勢のポイント

【活動1】 ライフラインチャート実践

受講者それぞれ、個人で実際に「ライフラインチャート」に記入、その後グループ内で共有。

【活動2】 ケーススタディ Q：こんなときどうしますか？

「ライフラインチャート」の授業での対応が必要なさまざまなケース

② 職業知識と自己理解を深める実践や技法

【活動3】テキスト p.26～「いろいろな仕事を知る」の実践

グループで授業案を作成し、発表と講師によるフィードバック

【活動4】カードソート技法の体験

日本語教師ならではの使用方法

【課題】研修の内容を踏まえて、実際に自分の現場でやってみようと思われる実践についてまとめる。（回収後、講師がフィードバックのコメントつけて返却した。）

5. 第5回研修

事前課題

1. 外国人を採用する企業等の事例

企業のパンフレット、動画を事前に参照し自分の知りたいことを整理して臨む。

研修内容

科目10：外国人を採用する企業等の事例

目的：

外国人を採用する企業の視点を踏まえて、日本語教師の役割や教室活動を捉え直す

実施内容

I < 講話①：特別養護老人ホームの事例 >

II < 講話②：コンビニの事例 >

講和は、各講師共に、以下の5つポイントを含む内容で、質疑応答の時間も含めて、各45分で実施。

- ① 外国人採用について重視していること
- ② 外国人スタッフの受け入れ体制・育成のしくみ
- ③ 外国人スタッフを雇う際に生じる課題
- ④ 職場での日本語力と業務の範囲、業種ごと必要になることばの違い
- ⑤ 外国人職員のキャリアについて（モデルケース、エピソード）

受講者は、事前課題で自分が関心をもっている点などを踏まえながら講話を聞き、ワークシートにメモを取る。

科目 1 1：外国人定住者の語りを聞く

目的：日本ではたらく個々の外国人の視点に立って、自身の役割や教室活動を捉え直してみる

実施内容

I <レポート>

各現地連絡調整員が担当する5つの異なる地域に関する情報提供と比較分析（地域、受講者の特徴と傾向など）

II <グループセッション> 外国人定住者の語りを聞く

各グループに3名の定住者がゲスト（語り手）として、1名ずつ入れ替わりながら訪れる。指定の時間内にゲストと対話を重ね、ライフストーリーに触れる。最初に来日した時期、日本に来た経緯、個人の就労経験と日本語学習について思うことなど、JICEの現地連絡調整員になるまで話を含めて、当事者の視点を得る機会とする。

科目 1 2：就労者に対する日本語教育のコースデザインと教育実践

目的：研修の学びを教育実践に展開する

実施内容

<ワークショップ導入> 最終発表準備

- ・活動目標：コースおよび授業の目標を設定し、コースデザインと教室活動例を組み立て、模擬実演を含めて発表を行う。
- ・グループで発表の準備を開始

第1～5回で学んだ内容について共有しながら、発表までの計画を立てる。

就労者の教育現場、対象者の特性を具体的に設定し、コースデザインを考え、具体的な教室活動・評価の展開を考案する。発表は第6回に行う。

6. 第6回研修

事前課題

1. 最終回の振り返りに向けて

第1～5回のチャートを振り返り、ポイントをまとめる。

研修内容

科目12：就労者に対する日本語教育のコースデザインと教育実践

目的：

- ① グループで第1回～5回を通して学んだことを整理し、それを具体的な教育実践への展開を考案する
- ② さまざまな教室活動案を見て、参加者間で意見を交換や評価し合い、新たな気づきを得たり、課題を発見したりする

実施内容

I <グループ活動> 最終発表準備

コースデザイン、授業実践の計画それぞれ、時間内で発表できる内容に絞って、ポイントを模造紙にまとめる。またその一部の模擬授業を実演する。（時間は合わせて20分）

II <発表・質疑応答>

Iで準備した内容をグループごと全員の前で発表する。その際、研修での学びを生かした点も盛り込んで解説する。各発表後、質疑応答は5分取る。また、各発表について付箋に意見・感想を書き、グループ間で渡し合う。

III <グループ活動> 発表振り返りと評価

まず個人で発表を振り返り、発表の成果と課題についてワークシートにまとめる。その後、グループで、IIでほかのグループから寄せられた意見・感想を踏まえて、発表内容を振り返り、評価をする。